

病理組織検査報告書

受付日時 2018/06/07

大学検体番号 No.49061

依頼者名 ペットクリニックハルルヤ粕屋病院

患畜名 河野 ブラッキー (か 697)

動物種 犬

猫

その他

品種

〇〇〇〇〇 (cM)

4

歳

H.

.

.

.

生

雄

去勢雄

雌

避妊雌

組織診断

拘束型心筋症 (心内膜心筋線維化型)

組織所見

肉眼的に、心臓は中等度～重度に拡大して丸みを増していました。また、左房にはきわめて顕著な拡大も認められました (図1)。心臓の縦断面 (図2) および心室の横断面 (図3) では、左室壁および心室中隔が中等度に肥厚するとともに、左室の心内膜はとくに下部2/3 (上部では心室中隔と前壁側を中心に; 下部では全周性に) が種々の程度に肥厚し、灰白色で不整な隆起性病変を形成していました (図2)。その結果、斑状の線維性増殖物が、前乳頭筋および後乳頭筋と心室中隔とを連結していました (図3)。なお、本例の場合には左房壁の肥厚を伴っていました (図2)。組織学的に、著明に肥厚した左室の心内膜は密実に増生した膠原線維束からなり (表層側には繊細な線維性基質と少量～中等量の粘液状基質ならびに中等数の筋線維芽細胞/平滑筋細胞をまじえている領域もみられます; 深層側には弾性線維の軽度増生を随伴しています)、その内部には左室仮腱索を包含していました (図4～6)。

コメント

以上の特徴的な肉眼的および組織学的所見から、心内膜心筋線維化型の拘束型心筋症 (RCM; 斑状肥厚タイプ) と診断いたしました。同時に採取された肺は、全葉にわたって茶褐色調を増し、退縮不良を呈していました。組織学的に、多くの肺葉が軽度～中等度の肺胞性肺水腫を呈するとともに、II型肺胞上皮の顕著な増殖も認められました (図7～9)。

担当教員

農工大・町田